教研集会に参加した小村さんの感想

豊

教研集会に参加して、一番感じたことは、日頃の教育実践の中で、子どもたちの事実をしっかりとつかんでいくことの大切さということです。

分科会の中で、「子どもたちの事実をつかんでいくためには、どうしたらよいか」という問題が出されましたが、この問題は、教師にとって、いつも悩まされる問題であるように思います。

私は、この問題について、次の二つのことが大切ではないかと思いました。

一つは、子どもたちの事実をつかむためには、教師自身が、子どもたちの中に入っていくことが大切だということです。

二つ目は、子どもたちの事実をつかむためには、教師自身が、子どもたちの中に入っていくことが大切だということです。

教研集会に参加して

巴

教研集会に参加して、一番感じたことは、日頃の教育実践の中で、子どもたちの事実をしっかりとつかんでいくことの大切さということです。

分科会の中で、「子どもたちの事実をつかんでいくためには、どうしたらよいか」という問題が出されましたが、この問題は、教師にとって、いつも悩まされる問題であるように思います。

私は、この問題について、次の二つのことが大切ではないかと思いました。

一つは、子どもたちの事実をつかむためには、教師自身が、子どもたちの中に入っていくことが大切だということです。

二つ目は、子どもたちの事実をつかむためには、教師自身が、子どもたちの中に入っていくことが大切だということです。

研究集会の感想

教師の指導性について

教師の指導性ということについて、私は、次のように考えました。

教師の指導性とは、子どもたちの主体的な活動を、教師が、どのように、援助していくかということだと思います。

子どもの事実をつかむ

子どもの事実をつかむためには、教師が、子どもたちの中に入っていくことが、大切だと思いました。

教師の指導性

教師の指導性とは、子どもたちの主体的な活動を、教師が、どのように、援助していくかということだと思います